

## ハガツオ *Sarda orientalis*

カツオによく似ていますが、体の背中側に黒い縞模様があることで区別できます。アゴが頑丈で、鋭い歯があるのでハガツオと言われます。県内でも一般にハガツオと呼びます。また、頭の形からキツネあるいはキツネカツオと呼ぶこともあります。新鮮なものは刺身などで利用され、きわめて美味です。



### 生物特性

ハガツオはインド・太平洋の熱帯から温帯域に分布します。日本では東北地方以南の沿岸表層にみられます。

ハガツオは最大体長 1.0m に達します。産卵期は、千葉県館山湾で 6～8 月、紀伊半島南部で 5～6 月とされています。本種は、ふ化から発育初期の成長がきわめて速く、ふ化直後に全長 4.2mm であった仔魚が、30 日後には 106mm にまで成長した例が報告されています。これは、他の一般的な海産魚とは異なる食性によるものと考えられます。多くの海産魚は、ふ化からしばらくの間は動物プランクトンを餌として成長します。しかし、ハガツオは動物プランクトンを食べる時期が約 1 日と非常に短く、その後すぐに他の仔魚を餌として利用するようになります。プランクトンよりも大きな仔魚を餌とすることで、他の魚よりも速く成長することができると考えられています。

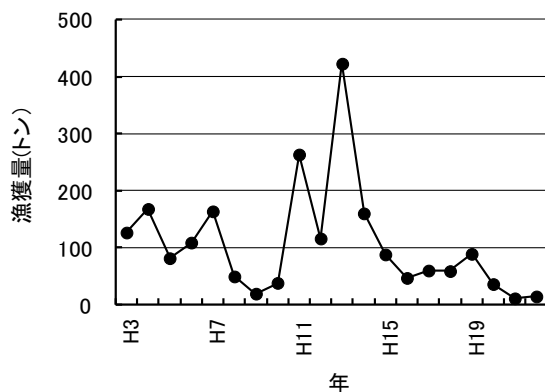


図1 土佐清水市漁協本所の立縄によるハガツオ漁獲量の推移。

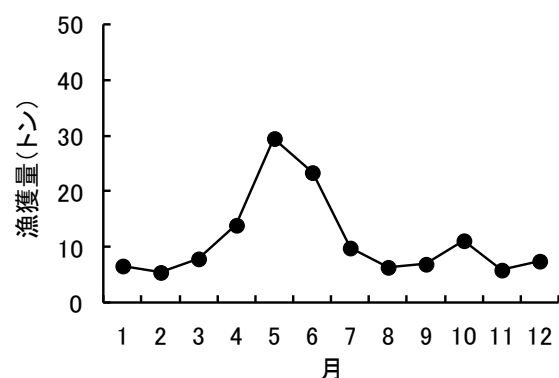


図2 土佐清水市漁協本所の立縄によるハガツオ月別漁獲量。平成 11 年～平成 20 年の平均値で示す。

## 県内の漁獲動向

ハガツオは、各地の定置網で漁獲されるほか、立縄でも漁獲されます。土佐清水市周辺の立縄によるハガツオ漁獲量の推移をみると（図1）、平成3年（1991年）から平成14年（2002年）までは100トンを超えた年が多く、平成13年（2001年）には423トンと多く漁獲されました。しかし、平成15年（2003年）以降は100トン以下に減少し、平成21、22年（2009、2010年）の漁獲量は10トンあまりと低水準になっています。立縄の漁獲量を月別にみると、5月を中心に、春季に多く漁獲されていることが分かります（図2）。定置網の漁獲量を月別にみると、7、8月に多く漁獲されています（図3）。

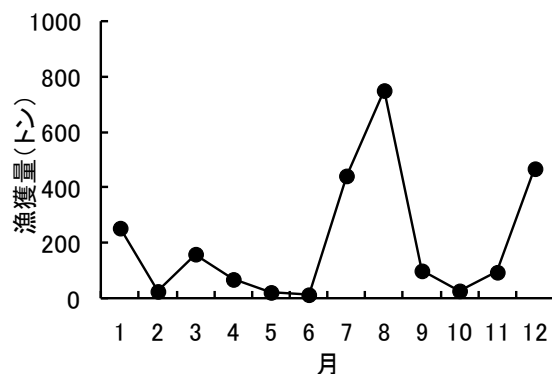


図3 高知県漁業協同組合所属の大型定置網によるハガツオの月別漁獲量。平成21年4月～平成23年9月の平均値で示す。